

18. 回帰分析

回帰分析の標準的なコマンドは次のとおり。

`regression /dependent 従属変数名 /method=enter 独立変数リスト.`

例 v24c(長男は結婚しても親と同居するのがよい：4件尺度)を従属変数として、l14a(近距離親族数の対数)とq42b(年齢)によって説明する。

`regression /dependent v24c /method=enter l14a q42b.`

出力例

The screenshot shows the SPSS output window with the following sections:

モデル集計

モデル	R	R 平方	調整済み R 平方	推定値の標準誤差
1	.200 ^a	.041	.039	.8500

1. 予測値: (定数), 0.428 年齢, L14A 地域親族数.
2. 従属変数: V24C

分散分析^a

モデル	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1	28.386	2	14.193	19.608	.000 ^a
回帰	28.386	2	14.193	19.608	.000 ^a
残差	665.937	920	.724		
全体	694.323	922			

1. 予測値: (定数), 0.428 年齢, L14A 地域親族数.
2. 従属変数: V24C

係数¹

モデル		非標準化係数		標準化係数		t	有意確率
		B	標準誤差	β	標準誤差		
1	(定数)	1.880	.073			25.883	.000
	L14A 地域親族数	.346	.093	.120		3.702	.000
	0.428 年齢	.052	.010	.154		5.083	.000

1. 従属変数: V24C

結果は、地域親族対数が1増すと、v24cが0.346上昇すること、年齢が5歳増すごとにv24cが0.052上昇することを示している。(B)

また、標準化した場合、地域親族数が標準偏差1単位増すと、v24cの標準得点が0.120、年齢が標準偏差1単位増すと、0.154増すことを示している。(ベータ)